日本アカデミック・アドバイジング協会 研究部会

協働的課題志向型リサーチ

Collaborative Problem-Oriented Research
（CoPOR;コポル）

2期生メンバー募集

アカデミック・アドバイジングに関するテーマについて
研究部会メンバーと一緒に学び合い・相互研鑽しませんか？
「やってみたいけど、でも…」なあなたをお待ちしています！

01 初心者歓迎！少人数ゼミ形式で
研究活動に取り組みます

02 調査・分析・アウトプットまで
研究の一連の流れを実践！

03 全回オンライン（Zoom）開催
ワークショップ形式で実施

活動期間
2026年4月
～2027年3月

申込締切
3/8日

Scan or Click!

■ 必ず応募要件をご確認の上、お申し込みください

主催・お問い合わせ：日本アカデミック・アドバイジング協会 研究部会（t-yamada[@]kansai-u.ac.jp（山田））

新規

日本の大学におけるアカデミック・アドバイジングの組織的展開

担当：山田剛史（関西大学）・木原宏子（創価大学）

アカデミック・アドバイジング（AA）は、日本の大学でもさまざまな形で実践されていますが、多くは部署ごとに分散し、目的や方法も異なっています。小組織内の個別最適ではなく、学生の学びと成長（Student Success）といった包括的な視点から捉えることが必要と考えます。大学ごとの文脈や現場の実践を踏まえながら、AAをどのように組織化し、大学全体として組織的に展開することができるのか、日本の大学での事例をもとに参加者同士で対話しながら研究していきます。

■ 到達目標

1. 日本の大学におけるアカデミック・アドバイジング（AA）の概念と領域、ならびにStudent Successとの関係を理解・説明できる
2. 自大学・自組織の取組をもとに、AAを学生の学びと成長の視点から整理し、組織的展開の方向性を言語化できる
3. AAを特定部署の業務としてではなく、大学全体の教育的取組として捉え、対話を通じて多様な在り方を探究しようとする姿勢をもつ

■ 実施計画（各回2時間程度・Zoom・ワークショップ形式）

第1回（4月中旬）：イントロダクションと問題意識の共有
第2回（5月）：研究方法論：質的研究とケーススタディ
第3回（6月）：ケース設定と分析枠組みの検討
第4回（7月）：事例分析の共有と相互検討
第5回（8月）：論文構成の確定と執筆への接続、CoPOR合同中間発表会
※日程は参加メンバーで調整、1回は対面研究会の開催を予定

■ 事前・事後に求められること

- 調査は分担を決め、ゼミ外の時間で実施します
- 調査・分析の進捗により、個別に分析会等を開催する可能性があります

■ 参加条件・前提知識

- アカデミック・アドバイジングの営みに関心のある方
- 基本的なPCスキルをお持ちの方
- 他者と分担、協働しながら研究を進めていくプロセスを楽しめる方

■ 備考

- 使用教材・参考文献は特にありません
- 平日夜間の実施を想定しています

山田 剛史（やまだ つよし）

関西大学教育推進部 副部長・教授

- 専門分野：青年心理学（博士(学術))、高等教育開発
- 研究テーマ：“誰もが自分らしく健やかで幸福に生きられる社会”を実現するための学校・教育・学び
- 趣味：ディズニー、うちのワンコ、 アニメ、Youtube漁り、何でも楽しむこと

みんなと一緒に知的に楽しみながら学び・成長したい。そんな想いでCoPOR（コポル）を立ち上げました。今期のテーマは、アカデミック・アドバイジングの組織的展開。最も緊急性が高いテーマの1つです。まだ萌芽期にある日本の大学でどのように展開できるのか。一緒に探究しましょう！

木原 宏子（きはら ひろこ）

創価大学学士課程教育機構 講師

- 専門分野：学習支援論、高等教育学、 教科教育学（国語）
- 研究テーマ：大学における学習支援、学習支援者養成
- 趣味：コンサート、ライブ、舞台、展覧会、映画などエンタメを体感すること、ピザ百名店めぐり

アカデミック・アドバイジングを大学全体や組織の中でどう位置付けて展開するべきか、日本の社会や学生像に適したアドバイジングはどのように展開できるのかについて、事例を持ち寄りながら一緒に探究しましょう！大人のゼミ、わくわくゾクゾク、今年も楽しくやっていきます！

■ 応募要件

- 3名程度　※応募者多数の場合は選考有
- 情報が欲しいというだけでなく、「研究＊」という営みに関わる意欲のある方
- 年会費（2025年度分）を納入済みであること（CoPORを機に入会を希望する方は要相談）

＊ ここでいう研究とは、普遍一般解を志向する学術的なものだけでなく、**実践上の課題解決のために行われる試行的・探索的なもの**を含みます。また、専門書・論文を読むことやデータ分析を行うことだけでなく、他大学のHP等にある情報を集めたり、インタビューを行ったりと様々な活動を含みます。その上で、それらの活動の過程や結果を**個人の中に閉じた勉強で終わらせず、他の方へ発信するという公共的な営み**を指します。

継続

Student Successの取り組み事例：調査と執筆の実践

担当：嶋田みのり（東北学院大学）・宝来華代子（崇城大学）

⚠嶋田・宝来ゼミの新規募集は行いません

「Student Success」ってなんだろう？海外ではどんな取り組みがなされているのだろう？そんな疑問から、本ゼミでは、海外の大学に設置されているStudent Success Centerの取り組み事例を調査し、JAAAのメンバーに共有します。本ゼミでは2025年度に引き続き、継続課題として同じメンバーで活動を行います。

嶋田 みのり（しまだ みのり）

東北学院大学教育総合研究所 客員研究員

- 専門分野：高等教育、日本語教育
- 研究テーマ：学習支援、ライティング教育など
- 趣味：家庭菜園で野菜を作ること、HANAの推し活

宝来 華代子（ほうらい かよこ）

崇城大学総合教育センターSILC（Sojo International Learning Center）教授

- 専門分野：英語教育、第二言語習得
- 研究テーマ：自律学修、自己管理学習、　モチベーション、SALC（Self-Access Learning Center）
- 趣味：ガーデニング、野菜作り、温泉、ハイキング、キャンプ

実際やってみてどうでしたか？
CoPOR1期生の声

大学職員として、業務を通じて得た疑問や成果を、研究成果として形に残し、社会へ還元できないかと考え、思い切って参加しました。卒論以来の論文が書けるのか、業務の傍らで時間がとれるのかといった不安は多くありましたが、初心者を導いてくださる先生方と仲間に助けられ、調査や論文執筆の苦労以上に、学びの楽しさを再認識する機会となりました。

質的研究という、これまで苦手と思い込んでいた研究手法を学びたかったことと、アカデミック・アドバイジングやスチューデントサクセスに関する研究を深めて行きたかったので参加しました。一つのテーマに対して、文献や海外事例の研究、各大学の実践例を学べました。また様々な研究成果、実践例等を一つの論文にまとめる（構造化する）プロセスも学ぶことができました。一人でやる研究ではなく協働での研究なので、一定の責任の中で着実に研究を進めることができたと思います。転職にも繋がりました！

CoPORゼミに参加し、「学生にとってのサクセスとは何か」という問いに改めて向き合う貴重な機会となりました。日頃の業務では支援や制度の運用に目が向きがちですが、本ゼミを通して、学生一人ひとりの成長や経験をどのように捉え、支えていくのかを立ち止まって考えることができたと感じています。特に、メンバーとのディスカッションを通して、各大学における具体的な実践例や工夫を知ることができた点は印象的でした。こうした視点や知見は、今後の学生支援や教育実践においても十分に活かしていけるものだと感じています。

CoPORゼミへの参加を通じて、周囲の方々の温かいサポートを受けながら、自身の業務をどのようにすればより効果的なものにできるのかを、改めて考える貴重な機会となりました。また、論文の書き方など研究を進める上での技術的な点についても、非常に多くの示唆を得ることができました。

CoPOR1期生の研究成果

ゼミの学びを学会発表と論文で発信しました！

- 髙良要多・竹内里実・田中美也子・木原宏子・山田剛史 （2026）「スチューデント・サクセスの実現に向けたアカデミック・アドバイザーの学びと成長（仮題）」『アカデミック・アドバイジング研究』4（2026.3刊行予定）
- 嶋田みのり・柴田弓子・長谷山和子・宝来華代子（2026）「大学におけるStudent Success Centerの役割と機能：米国4大学の事例を通して」『アカデミック・アドバイジング研究』4（2026.3刊行予定）
- 髙良要多（2025）「“Student Success”の定義とその測定方法に関する一考察」日本アカデミック・アドバイジング協会第5回年次大会 自由研究・実践発表 部会3（学会発表）